第 39 回世論調査

富士市に住んで私はこう思う
～　第五次富士市総合計画に係る市民意識調査　～

報 告 書

平成 22 年度

富士市総務部広報広聴課

目　　次

Ⅰ　調査の概要 3

Ⅱ　調査対象者の属性 7

Ⅲ　質問と単純集計結果 15

Ⅳ　調査結果 23

1　安全で暮らしやすいまちについて 23
（１）安全で安心して生活できるまちだと思うか 23
（２）居住地区は危機管理体制が充実していると思うか 27
（３）119 番通報ですぐに対応してくれると思うか 30
（４）居住地区は水害の心配がないと思うか 33

2　健やかに安心して暮らせるまちについて 36
（５）医療体制が整っていると思うか 36
（６）出産・育児環境が充実していると思うか 39
（７）適切な公的介護サービスが受けられると思うか 42
（８）相談できる人が近所にいるか 45

3　産業が交流するにぎわいのまちについて 48
（９）富士市内に自慢したい場所があると思うか 48
（10）活気がある工業都市だと思うか 51
（11）富士市内での買い物に満足しているか 54
（12）農林水産業に親しむ環境が整っていると思うか 57
（13）仕事と生活の調和が取れていると思うか 60

4　人と自然が共生し環境負荷の少ないまちについて 63
（14）地球温暖化防止への取り組みをしているか 63
（15）富士市は自然豊かだと思うか 66
（16）ごみを出さないようにしているか 69
（17）富士市の水道水はおいしいと思うか 72

5　魅力ある教育を実現するまちについて 75
（18）子どもが健やかに成長していると思うか 75
（19）市民大学などを受講してみたいと思うか 78
（20）芸術文化に親しむ機会が充実していると思うか 81
（21）スポーツに親しむ環境が整っていると思うか 84

6　人にやさしい便利で快適なまちについて 87
（22）便利で快適な都市づくりができていると思うか 87
（23）車以外の移動環境が整備されていると思うか 90
（24）富士山を活かした都市づくりができていると思うか 93

7　市民と創る新たなまちについて 96
（25）まちづくりに市民が参加していると思うか 96
（26）市役所は時代に対応した施策を展開していると思うか 99
（27）税金が有効に使われていると思うか 102
（28）市役所の窓口は応対がよいと思うか 105
（29）開かれた市政運営をしていると思うか 108

Ⅴ　自由意見 113

Ⅵ　結果の数表 159

Ⅶ　年度別テーマ 207

付録　調査票

Ⅰ　調査の概要

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

本調査は、「富士市に住んで私はこう思う」と題し、「第五次富士市総合計画」に関する内容について、市民の意識や評価を把握することを目的とした。

2　調査の内容

「富士市に住んで私はこう思う　～第五次富士市総合計画に係る市民意識調査～」について

3　調査の設計

（1）調査地域　富士市全域
（2）調査対象　富士市在住の満 20 歳以上の男女
（3）標本数　3,000 人
（4）抽出方法　住民基本台帳から等間隔無作為抽出
（5）調査方法　郵送調査
（6）調査期間　平成 22 年６月 15 日～６月 30 日
（7）調査機関　㈱サーベイリサーチセンター静岡事務所

4　回収結果

（1）発送数　3,000 人（100.0%）
（2）回収数　1,858 人（ 61.9%）
（3）有効回収数　1,855 人（ 61.8%）

※有効回収数は、回収したが記入のない（または少ない）調査票を除いて集計した数。

報告書を読む際の注意事項

1　比率はすべて百分率であらわし、小数点以下第２位を四捨五入している。このため百分率の合計が100%にならないことがある。また、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて“そう思う派”とした場合などにも、各選択肢の回答比率を足した比率と合わないことがある。

2　基数となるべき調査数は、Ｎまたは調査数と表示しており、回答比率はこれを 100%として算出した。

3　質問の終わりに（M．A.）とあるのは、一人の対象者が２つ以上の回答をしてもよい設問であり、その百分率の合計は 100%を超える場合がある。

（M.A.＝Ｍｕｌｔｉｐｌｅ　Ａｎｓｗｅｒの略）

4　質問の終わりに（Ｓ．A.）とあるのは、一人の対象者が１つだけ回答してよい設問である。

（Ｓ.A.＝Ｓｉｎｇｌｅ　Ａｎｓｗｅｒの略）

5　分析の軸として用いたライフステージは、次のように分類している。

独身期	20～30代の未婚者
家族形成期	第一子が未就学児、または40歳未満の夫婦のみ
家族成長前期	第一子が小・中学生
家族成長後期	第一子が高校・大学生（大学生・短大生・専門学校生・浪人生を含む）
家族成熟期	第一子が学校教育終了
老齢期	60歳以上の人

※家族形成期～家族成熟期の子どものいる人は、いずれも60歳未満の人とした。40代・50代の未婚者、40代・50代の夫婦のみなど、分類されていない層がある。

6　この調査は、等間隔抽出法により対象者を抽出したので、標本誤差は次式で近似できる。

$$\varepsilon = 2\sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ε：標本誤差
n：標本の大きさ
P：回答比率

回答者総数（1,855人）を100%とする質問で、ある回答選択肢に対する回答比率が50%であるとすると、母集団（20歳以上の富士市民全体）の回答比率は47.7%～52.3%の間であると推定される。

回答比率	標本誤差
50%	±2.3%
60%または 40%	±2.3%
70%または 30%	±2.1%
80%または 20%	±1.9%
90%または 10%	±1.4%